

社会科学部の 「ラーニング・コミュニティ」 とは

社会科学部新入生の必修科目である「ラーニング・コミュニティ」では、授業における到達目標は一律設定されているものの、一回一回の具体的な授業内容は担当する教員に任されています。本誌では、過去「ラーニング・コミュニティ」を担当した教員のグッドプラクティスや、学生の声などを紹介しています。本授業は大学生活をスムーズにスタートさせるための機会を与えると同時に、4年間の大学生活での「学び方を学ぶ」重要な科目となりますので、是非ご覧ください。

学際・国際・臨床的学びの 初年次ステップ

3

トレーニングターム

- ディシプリンのトレーニング
 - 理論と歴史
 - 臨床的なリサーチメソッドを知る
 - 文献探索・先行研究の整理
 - 情報収集・様々なノートーション
- [現行のコア科目など]

2

エンカウンター

- フィールドトリップ(学際・国際の現場)
 - WAVOC プログラム
 - アートから学ぶ・体験型学習
 - 先端事例を知る
- [課外プログラムも含む]

1

マインドセット

・ラーニング・コミュニティ

- AWADE
- 統計リテラシー
- 学術的文章
- 先輩OB/OG レクチュア
- WS



「ラーニング・コミュニティ」 のいま

Case

1

先輩学生の経験

ラーニング・コミュニティの複数のクラスでは、先輩学生をゲストスピーカーとして呼び、留学や就職活動など、自身の経験を履修学生に発表する試みが実施されています。先輩学生は1年生にとって身近な存在で、実施した多くのクラスで活発な交流が生まれています。

まずは担当教員のゼミ生等から発表者をお探しいただくことになりますが、もし希望に沿う学生がない場合は事務所にご相談ください。なお、発表学生には謝礼を支払うことも可能です。

担当教員の
声

「先輩学生の発表が
学生の留学のきっかけに」

留学経験のある先輩学生に発表してもらい、その後フリーディスカッションを行いました。多くの学生から質問があがり、また、留学を意識していなかった学生にも興味を持たせるきっかけとなりました。

Case

グループワークの実施

2

授業の中でグループワークを実施することが、新入生である履修者にとっては新鮮かつ学習効果が高いという意見があります。履修者はグループワークを通じて協働の大切さを学ぶことに加え、新入生でまだ知り合いが少ない学生同士が繋がることで、お互いに相談や質問ができるコミュニティを作ることができます。また、一方通行的な講義と比べ学生の主体性を向上させる効果もあります。議論活性化のためにTA等が必要な場合は、是非事務所にご相談ください。

担当教員の
声

「不慣れなグループワークは
早めに体験させる」

グループワークの例として、各学生が興味のある新聞記事を持参しそれについてディスカッションを行いました。これまで 高校での勉強を中心にやってきた新入生にとって、大学でのグループワークは新鮮なものようです。一方、ディスカッションなどのグループワークに慣れていない学生も多く、早い段階で体験させることには大きな意義があると感じました。



3 社会学での学びの理解促進

「学際性」「臨床性」「国際性」という3つの柱をベースに、社会学では様々な科目が提供されています。一方、その種類の多さから「何を学んでよいかわからない」という意見も聞かれます。日々発生する社会問題の解決には様々なアプローチが必要であり、社会学では多種多様な授業を通じてそれを学ぶことができることを、初年次最初の段階で気づけることは大きなメリットとなります。

担当教員の 声

「ゼミ紹介を通じて 社会学のビジョンを示す」

授業の中でゼミ紹介をしたら学生の反応が良かったです。社会学で今後どのようなことを専門的に学んでいくか、ビジョンが見えたという声がありました。

学習戦略の立て方

4

今後4年間社会学でどのように学べばよいか、新入生の多くは不安に思っています。そのため、Case3で学んだ「社会学での学び」を、実際にどのように自身の学習戦略に落とし込んでいくかが重要となります。一人で考えさせることも大事ですが、Case1、2で紹介した先輩学生の体験に基づく助言や、グループワークを通じて同級生とブラッシュアップすることで、より一層具体的な学習戦略が立てられる、という意見が多く寄せられています。また、短期・長期それぞれの目標を分けて考えることや、目標が変わった際の学習戦略の修正について授業内で扱うことも効果的とされています。

担当教員の 声

「学習戦略を立てることが 学びのイメージにつながる」

社会学では様々な分野を学ぶことができますが、一方でその高い自由度から「4年間の学習戦略を立てることが困難」という声も聞かれます。「学習戦略を立てる」というメインテーマを与えることで、自然と社会学で学べることや、留学などのプログラムに関する知識をつけることができます。これらの情報をインプットし、学習戦略という形でアウトプットさせることで、4年間の社会学での学びをより具体的にイメージしてもらうことができます。



「ラーニング・コミュニティ」の これから

ラーニング・コミュニティでは教室の中だけではなく、学内の様々なサービス・施設との連動が可能です。
もし何かご希望があれば、お気軽に社会学務所までご相談ください。

🎯 メンター制度との連動

ゲストスピーカーとして適格な学生が思い当たらない場合に、社会科学部で雇用しているメンターの学生を派遣することも可能です。活用を検討されている場合には事務局にご相談ください。また、14号館4階にあるラーニング・コモンズではメンターが常駐し、学生相談を受け付けています。様々なイベントも実施しておりますので、是非学生にご紹介ください。



ラーニング・コモンズ

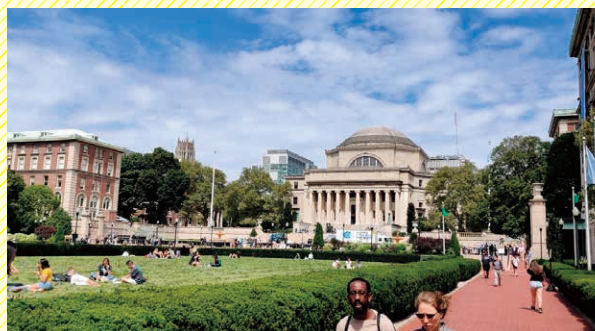
旧読書室を学生の学習支援スペースとして開放しています。自習やオンライン授業の受講だけでなく、グループワークやディスカッションのスペースとしても活用可能です。また、学生メンターが常駐しており、学習に関する相談を受け付けるとともに、定期的にイベントを開催しています。学生同士が意見を交換したり、イベント参加を通じて学生生活をより充実できるような、活気的な空間づくりを目指しています。



🎯 学内施設との連動

留学センター

留学の選考は出発の約1年前に行われます。例えば2年生秋から留学に行く場合、その選考は1年生秋から始まります。必要な英語力などを確認し準備するには、1年生の早い段階から情報を仕入れることが必要です。留学に関する質問は、留学センター(大学間協定)または社会学務所(箇所間協定)をご案内ください。なお、留学センターでは例年4月と10月に学内で留学フェアを開催しています。



図書館

中央図書館では、図書館の利用方法や施設について短時間で学ぶことができる「セルフツアー」を実施しています。クラス単位での授業中のご参加はご遠慮いただいておりますが、課題等にお役立てください。中央図書館セルフツアーの代替となる動画コンテンツもございます。事例に沿って、中央図書館の施設やサービスをご紹介します。図書館情報リテラシー動画を受講したうえでご視聴ください。

